

子育て支援の充実を

寺田 純子 議員



Q 日本の総人口を維持するために、2・08の合計特殊出生率が必要である。昭和49年以降はこれを下回り、現在に至っている。日本も右肩下がり的人口減少に転じ、少子化は国レベルの大きな問題である。そこで、地域における子育て支援事業『ファミリースポーツセンター事業』について伺う。

町長 現在登録されている方を対象に、スマートフォン・ファミリースポーツセンターを開設する。その活動を通して会員増加を図っていく。

Q 病児・病後児保育の現状と今後の計画は。

A 町長 玉村町の利用頻度を考えると、常駐の看護師や保育士を確保することは難しい。今後は、広域的なことも考慮し、近隣市に呼びかけていきたい。

Q 病児・緊急預かり対応 応基盤整備事業の講習会を受講すれば、ファミリースポーツセンターで対応できる。検討していたらきたい。

A 町長 子どもの育成課長 検討する。

Q ママヘルプサービス事業の進捗状況は。

A 町長 赤ちゃんの4カ月・10カ月健診でニーズ調査をした。サービス希望すると回答した人は32%だが、ニーズがある以上希望にこたえない。そこで、事業実績がある町内の民間事業所に委託し、サービスの提供を考えたい。

Q 玉村小学校内での児童保育はどうなったか。

A 町長 利用予定の空き教室が英語教室として使用されることになったため、校庭の一面にプレハブ教室を設置して行う方向で検討する。



すくすく元気に育ってね

国道354号の将来像の見直しを求む

三友 美恵子 議員



Q 国道354号のバイパスである東毛広域幹線道路(以下広幹道)は幻の道路と言われて久しかったが、県の努力により、平成27年度暫定2車線開通の運びとなった。また町は、東部工業団地から北へ、広幹道への接続道路も計画しており、車両は中心市街地を迂回できるようになる。

町の中心市街地を走る国道354号の将来像を今だからこそ見直し、第5次総合計画に盛り込む必要があると考える。高齢者でも歩いて買い物をし、街道の歴史

史散策をすることができるような、かつての日光例幣使道としてのたたずまいを持った地域コミュニティゾーンとして、沿道を整備するべきであると考えている。

Q 協働のまちづくりの中心となる、公民館機能を持った公民館の設置を求む。

A 町長 協働の拠点となる場所は大変重要であると考えている。新たな施設をつくることは難しいので、今ある施設の有効活用で対応していきたい。

Q 協働のまちづくりの中心となる、公民館機能を持った公民館の設置を求む。



玉村八幡宮

第5次玉村町総合計画は町民の英知を結集して

町田 むねひろ 議員



Q 第5次玉村町総合計画は、玉村町の将来を決める極めて重要な計画である。町長、職員、町民の英知を結集して策定する必要はある。総合計画の作成手順を示せ。

A 町長 まず、住民及び各種団体等のアンケートを行ない、要望を把握する。次に、各課のヒアリングを行い、計画の骨格を

Q 上福島7・4ヘクタール問題などの解決につなげ「産業振興と雇用の創出」のためにも積極的対応を求め。

A 町長 町田議員が言われたとおり、なるべく早く町民に伝えることが大切であると考え

Q 雨が多かった今夏は、道路の傷みの激しさを感じた。道路補修や路肩の草刈り、側溝整備など住環境整備のため大型の補正予算を計上すべきでは。

A 町長 近年は厳しい経済事情もあり、大規模な道路補修工事は減少している。降雨が多いと道路に穴があきやすくなり危険だ。現在の状況が続くとに危機感を持っている。

Q 予算を見ると、かなりの部分を部外に委託するようである。部外委託は極力避け、町民の英知を結集させながら、町長以下の職員を中心に作成すべきである。

A 町長 まず職員で原案を作成し、その後、部外の意見を聞くという手順で進めたい。

Q 町長 今議会で約1億円の補正予算を計上した。幹線道路や通学路を中心に、早期に道路工事や道路側溝の敷設を行う。道端の雑草除去は、通学路などを中心に、住環境整備に力を入れる。

A 町長 企業も大変苦しい経営を強いられている。企業の救済も検討しなければならぬ。同時に、子育て支援についても検討したい。

※パブリックコメント
：政策を決定する過程の中で素案を公表し意見や情報を募集。その意見等を行政運営に活かすシステム。

産業振興と雇用の創出を図れ道路補修などの住環境整備を

宇津木 治宣 議員



Q 環境保護の一環として「物流通業務の総合化」の県基準が改定されたが、その内容は。

A 町長 高速道路インターチェンジ5キロ以内であれば、認定を受けた事業者が、市街化調整区域内であっても許可できるような基準改正を行った。進出できる範囲は市町村長の要望に基づき、県が指定する。

Q 都市計画課長 インターチェンジから5キロ以内には町の西部方面も入るが、上陽地域を指定するよう県に要望した。この条件に合致する場所は、上福島7・4ヘクタール、北部工業団地の残りや県道藤岡大胡線に面する藤川団地東の地域などだ。

A 町長 近年は厳しい経済事情もあり、大規模な道路補修工事は減少している。降雨が多いと道路に穴があきやすくなり危険だ。現在の状況が続くとに危機感を持っている。

Q 町内企業の仕事を確保することが、地域経済活性化に役立つ。

A 町長 今議会で約1億円の補正予算を計上した。幹線道路や通学路を中心に、早期に道路工事や道路側溝の敷設を行う。道端の雑草除去は、通学路などを中心に、住環境整備に力を入れる。

A 町長 企業も大変苦しい経営を強いられている。企業の救済も検討しなければならぬ。同時に、子育て支援についても検討したい。



北部工業団地付属公園 グラウンドゴルフ場



未来を担う、玉村町の子どもたち